

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム「かっこう」

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392800017		
法人名	住田町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム「かっこう」		
所在地	住田町下有住字十文字89-2		
自己評価作成日	平成30年8月3日	評価結果市町村受理日	平成30年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=ion_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0392800017-00&PrEfCd=03&VerSaiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者個人や家族の思いを可能な限り尊重し、個性を大切に、やってあげるのではなく、本人の持っている力を引き出しながら、一緒にやろう、やっているという実感を持っていただけるようにと思っています。体力や理解力、思い等にも個人差があるため、時には個人や小グループでのお出かけなども行っています。決められたルールの中でも柔軟に状況に応じての対応していきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧JAの建物を改築したグループホーム「かっこう」は、併設のデイサービスと共に利用者の「家」となり、地域の高齢者の憩いの場ともなっている。高齢化が著しい当地域でホームでの「お茶っこ飲み会」や「夏祭り」等は、地域助け合い運動の一環としての役割を果たし、まさに地域密着そのものと言える。また、利用者個々の潜在能力を引き出し、制作面でも利用者が取り組みやすい支援を工夫し、展示会に出品し見学に出かけることは、地域の方々との触れ合いの大切な機会となっている。毎月の職員会議では綿密にケアカンファレンスを行い、日々の業務の振り返りと目標を検討し、職員間の連携・協力を大切にしながら一層のレベルアップを図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム「かっこう」

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者側からも「家族なんだから」との声も聞かれ定着していると感じている。それぞれの自立支援を目指している。	職員と利用者が地元同士の親近感を抱きながら、理念が追い求める「その人らしく、自立に向けた笑いのあるケア業務」に意識して取り組んでいるかどうかについて、毎月の職員会議で振り返り、目標等を話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には出来るだけ参加している。今年度も住所地で行われた住民交流会のお誘いを受け出席することが出来た。クップ大会や地域のお祭りにも参加を予定している。	併設のデイと共にホームを会場に年5～6回開く‘お茶っこ飲み会’や年一度の収穫祭・夏祭り等は、高齢化と人口減の著しい地域の、明るく楽しい行事となっている。保育園の遊戯会、学校関係の文化祭や運動会などにも招待され交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お茶のみっこ会の開催の継続により利用者との交流を通じて理解を深めて頂いたり、今年度も研修会の開催を予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	いつも利用者はもちろんですが、職員に対しての気づかいなど、貴重なご意見を頂いている。違った視点での気づきを述べてくれる。	運営推進会議は上有住、下有住両地域の民生児童委員5名と社協関係者、家族2～3名等で構成し、ヒヤリハットや運営上の課題や防災等について、委員それぞれが自分の事として意見交換している。今年度中に認知症に関するミニ研修会も予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員でもあり、情報提供や助言を頂くことが出来ている。	町担当者は運営推進会議のメンバーとして、情報提供や困難事例への助言もしてくれる。要介護認定の申請などに直接窓口に出かけることも多いが、町社会福祉協議会運営の事業所ということもあり、直接・間接に情報をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関については中からスイッチを押さなければ自動ドアは開かない状態ではあるが、現在は便宜上のもとなっている。センサーマットやベットの柵は使用しているが安全性と起居動作の為に一部に使用している。帰宅願望がある方に可能な限り、一緒に出掛けるようにしている。	夕方になると帰宅願望が強くなる利用者には、職員と一緒に出かけ気分転換を図ったり、録音した家族の声を聴かせている。やむを得ずベッド柵やドラッグロックが必要な場合には、家族に説明し同意を得たうえで使用している。	

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉やネグレストによるものは全くないとは言いきれない。そのような状況が見られるときには、別の職員が対応し職員間で気づきを得たり、研修も予定している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協事業の一つでもある為、新規採用時の研修内容となっている。成年後見人制度等現在は対象者がいない為必要時には研修の機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料やケアプラン等の説明はその都度行い、理解して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会の時、運営推進会議等を利用して設けている。利用者に直結するのは連絡ノートで周知を図っている。	面会に訪れる家族は決まっており、意見・要望をいただく以前に、他の家族をどう巻き込んでいくかが課題となっている。年一度の家族会では、利用者の健康状態や日頃の生活の様子を尋ねる家族が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング時などでの話し合いを管理者会議の時に提案したり、急を要するときは上司に直に報告、相談している。	毎月の職員会議時のほか随時提案される職員の声は、管理者会議等に上申され殆どが採用されている。職員が利用者へ余裕を持ってケアできるようにするためのソフト・ハード両面の提案が、ホーム全体のレベルアップに繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回局長による面談があり、勤務などに関する要望等の聞き取りがされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社協による研修の他に、外部研修は職員に確認をしながら要望に添えるようにと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の会議や研修には出来るだけ参加している。すみた荘への夏祭り協力も継続している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自分から訴えられる事が難しい方もいるので、日々のコミュニケーションや様子を見て、カンファレンスや連絡ノートを通じて周知するなどの試行錯誤をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と顔を合わせる機会が少ないので、とても大事にしている。また電話やメール、手紙などでの報告も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めの段階での説明と、変化に応じての報告や相談に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを図りながらの季節の行事や昔の生活、思い出話はよく会話の中に出で、懐かしんだり、教えて頂くこともたくさんある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は代わりに対応(食事介助や歩行訓練等)して頂いたり、誕生会へのお誘いを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方が多く、デイサービス利用時に遊びに来て頂いたり、地域行事への参加やドライブなどを行っている。	地域公民館での敬老会やホームでのお茶っこ飲み会や収穫祭、夏祭りなどで、利用者は友人・知人に会い歓談している。また盆や正月の帰宅は、家族だけでなく知人にも会える機会となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内での席の配置はもちろんですが、ドライブ時の座席も考慮、トラブルになりそうになった時は職員が早めに対応し、笑いに変えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してからは積極的な関わりはないと思う。町内の方が多いため、顔を合わせることはあるので、そういう時には思い出話や近況の話をしたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	身近に話をすることも多く、情報は得やすい状況にあると思う。職員間でのカンファレンスは月2回ですが他にも職員間でのやり取りや連絡ノートでの情報共有で変更時の対応は早く対応できている。	月1回のカンファレンスと職員間でのやり取りや連絡ノートで情報を共有している。言葉で表せない方は、行動やしぐさで意向を推し量っている。年1回の利用者満足度調査や家族のお話から把握した個人の思いを尊重し、楽しく過ごせる支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	グループホーム入所前から社協のサービスを利用している方も多いため、職員も以前からの経緯を知っていることも多い。他の情報も比較的入りやすい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間のやり取りやカンファレンス、連絡ノート等で情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでの話し合い等で状況に応じての変更は出来ていると思う。家族とは面会時に説明、要望の確認をし了解を得ている。	担当制を採りながら、職員全員で関わり見守っている。日々の気づきや作業日誌を全般的に把握したうえで、細やかな部分も取り入れ、医療機関を受診した際の医師の助言等も家族に報告しながら、利用者に即したケアプランとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は各々責任をもって行っている。記録の残し方については課題も多く、検討事項になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じての柔軟な取り組みは出来ている。入り込み過ぎずに、家族も関わってもらえるようにしていきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の集まりに声をかけて頂いたり、地元行事には施設の庭を使って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族が選択、対応も家族であるが、都合や緊急時は対応している。(基本は町内のみ対応であるが状況により町外も対応している)今年度からは1名訪問診療を受けている。	大部分の利用者は町内唯一の地域医療センターをかかりつけ医としている。車酔いする方1名だけが、隣接市の開業医の訪問診療を受けている。地域医療センターは午前中のみの診察のため、緊急時の対応に不安を持っているとしている。	今年度から看護師資格保持者が管理者となり、利用者にとって心強くなったところであるが、定期に来られる訪問診療の効果的活用の是非について、検討されることを期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度から看護師が配置となり、報告や相談、情報共有が以前より容易となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診介助時や受診後、家族からの情報提供を受けたり、毎月行われている在宅医療連絡会議に出席し情報の提供や共有に努めている。主治医から依頼があった方については毎月状況報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明、了解を得、本人の状況を見ながら家族と相談、今年度はまた確認をとっているところである。	ホームでの看取り対応は困難であることは入居時に家族に説明し了解を得ている。地域包括支援センター等との連携を密にとり、重度化に際しての他施設の紹介等、その後の対応を十分にフォローするように心がけている。	ホームでの看取りが困難な現状で、特に夜間の容態急変時に備えて関係機関との連携を密にするよう努力されており、引き続き、ホームのみならず地域の課題として、終末期の医療対応について関係機関とともに検討されることを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染症については、周辺の感染状況を見ながらの研修を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	デイサービスと合同の避難訓練の他に、地域を含めての訓練や、今年度は水害を想定した訓練も予定している。	多くの住民の協力を得て、併設のデイサービスとの合同訓練や夜間想定のみ独自訓練を実施している。避難場所、通報システムを確認し、正面玄関の段差等の改善も加え、更に地震・火災時避難マニュアルを整備し、非常食も備えている。イエローゾーンとされてる水難、土砂災害に対する避難対策は検討中としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る前の声掛けはもちろんですが、個人を尊重しながら、話しかけや対応をするようにしている。	プライバシー保護のため、広報への写真掲載や面会受付簿の管理等にも配慮している。タイムリーな誉めかたで多彩な特技を掘り起しながら、運営の原点である笑顔に結び付け、ホームの雰囲気は非常に朗らかである。自らジョークを飛ばし、大きな笑いを誘っている利用者もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の表現が苦手な方にも、いろいろな方向から問いかけ、確認をするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きな行事は前もっての計画を立てているが、日頃の予定は、天気を見ながらやイベントや周辺情報、要望を聞き、当日決めることも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装などはそれぞれの好みや季節に合わせて対応しています。髪型や装飾品も希望に沿いますがトラブルにならないような配慮が必要です。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じての役割分担や席の配置を工夫している。食事アンケートを取り、嫌いなものには代替食を提供している。	献立、調理は職員が交代で行い、利用者も片づけや盛り付けなど出来ることを手伝っている。土地柄野菜の差し入れが多く、普段のメニューは冷蔵庫の中身で決める家庭料理である。法人の管理栄養士に定期的に診てもらい、塩分の摂りすぎを防ぐため、今年から1日3回の味噌汁を2回にした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じて食事形態やお箸やスプーンを食べやすく、使いやすいものなど安全に気持ちよく食べて頂けるような配慮をしている。水分も好みに応じてや摂りたがらない方には、ゼリーなどを小分けに回数での対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年1回歯科検診を受け、必要に応じて歯磨き指導をして頂いている。毎食後の歯磨きの声掛けや援助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレで排泄している。記録を確認しながらの誘導となっているが、本人の変化を見ながらの誘導もしている。機能低下もあるので、失禁が減っているとは言えないが、出来るだけ失敗ないように働きかけしている。	排泄パターンを把握し全員トイレ排泄を可能にしている。完全自立が1名、布パンツを使用し誘導でのトイレ利用が4名、他の利用者は布パンツにパットを使用し夜間はリハビリパンツを使用している。加齢に伴い機能が低下しないよう職員は配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録の確認や、食事状況によりタイミングを逃さないようにしている。土地柄、野菜も豊富なので調理の工夫や、乳製品も毎日摂って頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	予定を立ててのお誘いをしているが、その時により次の日に変更したりと、柔軟に対応をしている。	入浴は週2回で夏は3回実施している。脱衣室の入り口に当日の入浴者の名前を記入し、利用者、職員への意識づけを工夫している。体調の都合で入浴しない場合は足湯と清拭で対応している。異性介助にも拘らず、浴場内での会話は弾んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活サイクルが乱れないように、規則正しく生活して頂けるように働きかけしているが、無理強いせず、個人の要望も取り入れている。状況によっては、午前から安静時間を設けたり、午睡時間を長くしたりの支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に頂くお薬情報の回覧と、変更があった時には連絡ノートを活用し、情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ヘルパーやデイサービスからウエス切りを依頼され、自分にできることはと快くお手伝いして頂いている。買い物時には好みの物を選んでいただくこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前に住んでいた地域からのお誘いがある時には、積極的に参加して頂いている。アンケートを取り、要望があればお誕生会などイベント時に出かけたり、声をかけて頂いた時には出来るだけ参加するように努めている。	食材の買い出しや「お茶っこ飲み会」の案内(20軒)配りや、時にはデイサービスの送迎車でドライブしたり、希望者は自宅を見に家族と個別に出かけて楽しんでいる。職員は利用者を少しでも外気に当てることを念頭に、好天時には駐車場で歩行訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方に関しては、本人が自己管理しており、自分で欲しい物を購入、領収書も自分で管理している。家族にはその旨を口頭で報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限はなく希望があれば対応をする他に、荷物が届いた時にはこちらからも連絡を入れるように働きかけしている。帰宅願望が強い方にも、家族と話しをして頂き、不安の軽減に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓があり、季節によっては日差しが強く当たったり、室温も同じ温度で、寒い方がいたり、暑い方がいたり、皆さんに快適とは言いかねますが、衣類で調節したりしている。部屋の明るさも転倒の心配もあるので、暗いのを希望される方にも、最小限の明かりをつけて頂いている。	広く長いホールの西端に大きな畳の小上がりがあり、中央にはソファ、椅子用コタツ、テレビが適度な間隔に置かれ、玄関横には花や観葉植物が飾ってある。両壁には習字・絵・貼り絵・刺し子等の作品が展示され、利用者の多彩な特技が窺われ、町の文化祭にも出品されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室なので、状況により自室で過ごされたり、ホールで過ごされたりと、それぞれ自由に過ごされている。また共有の場所でも基本的には座る場所が決められていて、気の合う方が隣になるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に持ち物の制限はなく、希望されれば自宅にある思い入れのあるものの持込みは自由である事を家族にも説明されている。	居室にはベッド、クローゼット、パネルヒーター、洗面台と椅子が用意され、どの部屋も花や写真・カレンダー、ホーム内でのレクの際の賞状等が飾られている。余分なものがなく、スッキリと整理されたシンプルな居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレマークや居室の名前は大きく、分かり易いようにしている。ホールに常に職員がいるようにしているので、分からなくなった時には直ぐに聞ける状況にある。		